

山行報告書

神戸勤労者山岳会

- 1 参加者 L 仲島、保木本、西、湊、宮島
2 山城・ルート 板取川/川浦谷
3 交通手段 車
4 行動記録

2018/8/5(日)

板取川キャンプ場 9:25- 10:20 海の溝谷出合-70m 廊下-12:00 70m 廊下突破後のテラスで昼食-14:26 西ヶ洞分岐-14:33 遡行終了点-15:59 キャンプ場

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

少し時間がかかったが予定通り

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す

核心で 70m 廊下を突破する際に後続の 3 名と全員のザックを一度に連結して、一度に引っ張ってもらったが、うち 2 名はザイルが足に絡まってしまい少し変な体勢で引き上げられた。注意したい。

c その他、ルートに関する情報・気がついた事等

核心の 70m 廊下までの前半部分と大きな淵の泳ぎがあるが平和な後半部分に分かれている。核心部が突破できなかったという記録が山ほどあり、今回も水量は少ないと考えられるが、それでもクロールでないと突破できなかった。これほどまでに狭まっているゴルジュは初めてだった。

写真・感想はヤマレコ参照

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1546561.html>

報告者氏名 宮島 2018 年 8 月 18 日

【ヤマレコより】

前日の海の溝谷でかなり疲れていたが、快晴なので予定通りに川浦谷に行くことに。

キャンプ場の入渓地点で川を間違えて、キャンプ場のおじさんに教えてもらう。キャンプ場は家族連れが大量におり、場違い感が半端ない。さっさと入渓して逃げることにする。

最初から泳ぎ。昨日同様にパドルグローブで快適に泳ぐ、つもりだったがもともとの泳力が弱すぎるので結構疲れる。途中で少し流れが速いところでは闘将に泳いでリードしてもらい残りはザイルを手繰って泳ぐ。思ったよりもすぐに海の溝洞出合に着く。ああ、昨日苦労したところだ。

少しへつっていくと幅広 3m 滝にでた。どうやって進むのだろうと思ったらハーケン 3 つと残置スリングがありここが懸垂支点らしい。まっすぐには降りると滝の下なので斜め懸垂しておる。リードで降りたのでちょっと怖かったがハーケンはかなりしっかりしている。パドルグローブはここで脱いで普通のグローブに代える。(本当はこの先が泳ぎの核心だったが)。

懸垂で降りたあとは滝の横を抜けるがすべったら滝に落ちてしまう(落ちた記録も見た)のでちょ

っと緊張する。

この先が有名な穴の開いた壁。そして核心の廊下へ。穴の中へ登れそうだったが降りるときに水に飛び込むのも怖いのでやめた。核心最初の 50m 廊下は左岸側をなんなく泳いで突破。ゴルジャーが先頭でザイルを流しながら進んだが、FIX することもできないので邪魔になるだけなのでしまう。

そしてここからが 70m 廊下の本当の核心部。自分が経験した沢 (40 沢くらい?) の中で一番狭い! 闘将リードで泳いで行くも流れが速く、途中の左岸にある小さな岩棚にゴルジャー以外の 4 人でしがみつく。ここからザイルを出して、闘将が空身になって平泳ぎで突破を試みたが跳ね返された。ここでとうとう本当の意味でのゴルジャーの出番。先頭をゴルジャーに代わりクロールで左岸沿いを進む。それでも途中でスカイフックで休憩をしてハアハアいいながら右岸の小テラスにたどり着いた。ついで闘将がザイルを手繰って突破し、残りの 3 人は 5 人分のザックごと一度にザイルで引っ張ってもらって突破。釣りキチ先輩と N さんはザイルが足に絡んで変な体勢で引っ張られてしまった。

ようやく 70m 廊下の大部分を突破するも、この先は左に折れ曲がっており、流れが強い。上を見ると橋に見物人が数名いる。見物料は 500 円くらいかな。ここまで懸垂以外でリードしてなかったののでせっかくなので自分がリードしていくことにした。空身で右岸沿いを伝うが思ったよりも簡単。そこから左へ曲がると小さいが流れの強い滝があったが、さすがにこれは突破できない。滝の下を思い切って右岸から左岸へジャンプして少し流されながら突破! 本日より一番緊張した(リードだから)。少し上に鉄のポールが刺さっており、そこにザイルを FIX して残り全員を引き上げる。この左岸の大岩を登ると広いテラスになっておりここで昼食休憩とした。持ってきたカップラーメンも昨日の夜の残りで作ったおにぎりも食べる。これで核心は終了したが、ここですすでお昼になってしまった。

テラスから降りるところが少しいやらしい。この先もやや流れが強いところもあるが、核心に比べれば大したことはない。泳ぎとへつりで突破するが、途中で 2 回ほど泳いで対岸へ渡るところがあった。1 回はお助け紐を出してもらい大丈夫だったが、1 回は行けるだろうと飛び込んだが、思い切りが悪くて軽く流されてしまった。

この後ナメがでてきてたり淵がでてきて泳いだりするが前半と打って変わって平和。長めの淵が 3 回ほど出てくるのでへつりを交えて泳いで突破する。吊り橋のある地点の淵の泳ぎでは左岸沿いをへつって泳いで突破するが、少し流れがあるため N さんがうまく突破できず、自力で突破してもらおうとの方針のもと待っていたが、最後は闘将が泳いで助けに行った。(自分はお助け紐 2 つ連結して投げたが届かなかった)

西が洞谷分岐を越えて残置ロープのある地点で遡行終了。ここで着替えて斜面を登ると明瞭な道で、最後には階段まである親切さだった。旧道を下るがトンネルが併設されているため道は荒れている。来週の小倉谷の装備 (ネオプレンのウエットはいらない等) の話をしながら下る。途中の橋で 70m 廊下を見下ろすがよくこんなゴルジュを行ったものだと思う。そりゃ自分でもこんなところに人がいたら見物するさ。

来週予定の小倉谷とは沢の形態がだいぶ違うために物理的な練習になったかは疑問だったが、少な

くとも精神的には度胸がついた。川浦谷は4年前に別のメンバーと行く計画をされていて悪天で流れたが、あのときだったら行けてなかっただろう。

今回もぶよがめちゃくちゃ多くて足を中心にかなり刺された。

帰りは昨日と同じ板取川温泉に入り、夕食は今年から台湾料理が恒例になっているので、開拓4件目となる美濃のお店で食べた。味も量も奈良の某本店と高山のお店の間でほど良かった。

間髪明けず来週がとうとう本番なので、帰宅して洗って再度準備で忙しかった。

以上